

## 広がり、深まるモスン教育プロジェクト

HANDS が FOT から引き継ぎ 4 年が経過したモスン教育事業。チボリ語併記の教科書作りや中退児童に対する基礎学力短期習得などの狭義の教育から、消滅が危惧される稲の原生種栽培や先祖伝来の土地問題に村を挙げて取り組むなど、活動も広範囲になっています。

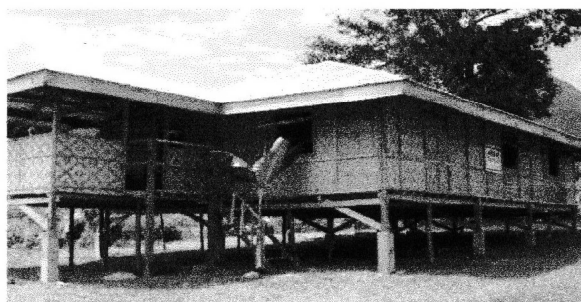
今年度は教師 5 名の給与補填のみの支援で、資金面で苦しいモスン事業ですが、モスンの生徒たちは元気です。マニラやダバオでその理念を発表する機会があり、マニラに向かう船上ではチボリダンスを披露して喝采を浴びたというシェリルの報告も届きました。

次年度は、モスンのブックレット学習をブラクールに導入します。これはモスンプロジェクトにとって、貴重な自主財源になると期待しています。

## ナバルタビの織の家が完成

ポロモロック町アムグオに建設中(松尾建設基金)だったピラーンの伝統織物ナバルタビの織の家が 10 月に完成しました(竣工式は 12 月)。

44 号で紹介されているように、「わび・さび」に通じる織は、バザーやフェスタでも人気があって帯地にしたいという注文が入っています。一卷 3.5m はほしいという日本での需要に応えるには、以前の狭い小屋では無理だったのですが、その小屋が突風で半壊したのを機に支援が決まりました。



壁も床も竹製という織の家は、スヌーリア(元奨学生・アムグオの組合スタッフ)が、HANDS 駐在事務所を訪ねて打ち合わせを重ねた結果、耐久性より伝統重視で設計されました。内部はかなり広く、ナバルタビのほか、ビーズ、刺繍、竹箆など各種作業の拠点としてすでに活用されています。町の学校から伝統工芸見学に来ることもあるそうです。



織の家内部。ナバルタビコーナー

## 生協店舗再開にかける COWHED

ここ数年、配当金なし、スタッフ給与も十分払えないという経営が続いており、今度こそ COWHED 運営再建をと、昨年はメルチさんを中心に国内市場開拓に努めました。大口の刺繍製品の注文も入りました。HANDS が用立てた回転資金の返済も近いと期待しています。



刺繍ポシェットの製作者  
(COWHED 組合員)

もう一つの再建案は、休業中の店舗の再開です。組合員の意識を高めて掛売りを減らし、取立てをしっかりと行くと、スタッフや役員は生協店舗再開へ意欲的です。

日本でのティナラク製品の評価は高く、今後も定量的に販売できる見込みです。この貴重な技術を収入向上につなげるため、今しばらく COWHED 再建を支援します。

## 見えてきた地域医療の将来

### 2001 年から続くモロの村の医療改善事業

カーテン、ベッドなど鍼灸院開設に必要な備品支援だけに終わった年(2003 年)もありましたが、本年度の事業を通じて感じるのは、ようやく基礎体力がついたということです。単なる巡回診療や入院支援でなく、村の健康・衛生調査や保健ボランティア研修、薬草や鍼灸治療の活用などを積み重ねた 5 年間により、次のステップを踏み出す確かな土台が築けたと感じています。

その主役は次ページで紹介されている薬草から作るハーブ薬です。もう一回だけ後押しいただければと、今年も今井記念海外協力基金に対して助成の申請をしました。(事務局)

